

鳥取県立美術館 「貸館利用ルールについての公開対話会」の意見概要

- 【東部会場】 令和5年5月27日(土) 13:00~15:00 とりぎん文化会館 第2会議室
【中部会場】 令和5年5月28日(日) 13:00~15:00 倉吉体育文化会館 中研修室
【西部会場】 令和5年6月3日(土) 13:00~15:00 米子コンベンションセンター 第3会議室

- 説明者：鳥取県立美術館パートナーズ 統括マネージャー 赤尾（指定管理者の候補者）
○オブザーバー：鳥取県教育委員会事務局美術館整備局 美術振興監 尾崎、美術館整備課参事 三浦
○各会場において、総勢15名の方にご参加いただき対話会を行いました。

1 県民ギャラリーの利用について

- ・県民ギャラリーを分割して使うときはどんなレイアウトになるか。
- ・県民ギャラリーを分割して他団体と同時利用するのは困難ではないか。（通路・受付場所・マイクや音楽の使用有無・日光の遮断有無・搬入搬出のタイミングなど）
- ・複数の団体が県民ギャラリーを同時利用するマッチングの難しさを感じた。稼働率も大切だが発表の場として気持ちよく利用できることを優先してほしい。

＜赤尾＞複数の団体が同時利用使用する場合のデメリット（調整困難・トラブル等）を考慮し、運用の検討を行い、次回対話会にて、改めて検討案をお示しする予定です。

分割レイアウトの事例も次回対話会でお示しする予定です。

- ・利用期間や展示替えのタイミングはどう設定されるのか。
- ・県民ギャラリーの搬入搬出が休館日にできれば、分割利用もスムーズで稼働率も悪くならなくていいのでは。
- ・一週間単位だと、利用のハードルが高い。
- ・利用料金の免除を受けられない団体は、平日の利用はあまり無いのではないか。
- ・展示日を土日の想定だけでなく、学生など平日の方が都合がいい場合の想定も必要ではないか。

＜赤尾＞1週間を一コマとする予定で、開始・終了曜日を何パターンか検討しています。

ご意見を基に検討を行い、次回対話会で検討案をお示ししたいと思います。

- ・県民ギャラリーを県が企画展に使うことがあると思っていた。そのなかで、開館後2、3年は利用希望も多くて、自分たちは借りられないだろうと思っていた。

＜三浦＞県民ギャラリーを企画展などの美術館事業では使いません。県展など県民参加の公募展などでは利用を予定しています。

- ・様々な展示ができる十分な天井高が確保されているか。

＜赤尾＞面積493㎡天井高さ4mとなっており、様々な展示が可能であると考えます。

- ・可動壁は誰でも動かすことのできる使いやすいものにしてほしい。

＜赤尾＞天井のレールに沿って動かす機構です。力はいらず利用者ご自身で操作が可能です。

- ・天井の照明について詳しく聞きたい。（高さ・照度・ピッチ・数・分割した際の配置など）
- ・天井の照明について スポットライトの数が少ないのではないか。

＜赤尾＞LEDスポットライトの数は80灯。詳細は、次回対話会でお示しします。

＜尾崎＞数は十分であると考えます。

- ・展示会の情報は、館外・館内共にどのように掲示されるか。特に館外掲示をしっかりとほしい。
- ・鳥取県立博物館のような懸垂幕がほしい。

＜赤尾＞現在検討中です。懸垂幕を設置する設備は備えておりません。

今後、館内外の掲示板等、貸室に関連する掲示案内板の情報も提示する予定です。

- ・料金設定はどうか。展示スペースのみの設定を希望する。
- ・使用料金について 使いやすい料金を希望します。
- ・使用料金案は高いと感じる。新しい施設であるし、民間の指定管理者が運営するためには利益が必要なのはわかるが。減免利用を希望する。
- ・減免・優先利用の具体的な内容は？

＜赤尾＞ご意見を参考に多角的に検討します。分割利用の場合、利用したスペース分の料金設定を検討しています。

また、できるだけ有効活用するため、一定期間は全面利用・長期利用する団体を優先的に受け付けることも現在検討中です。減免及び優先利用の具体的な検討案は、次回対話会でお示ししたいと思います。

- ・減免事由にある「高齢者や障がい者の社会参加」の「社会参加」とは具体的に何か。役所言葉でなく県民にわかりやすい言葉で説明してほしい。

＜赤尾＞県立博物館の例を参考としてお示ししたものです。高齢者や障がいのある方が社会で孤立しないよう、美術館や文化施設で活動を楽しんでいただくことをイメージしています。

- ・オープニングセレモニーができるスペースはあるか。

＜三浦＞“ひろま”をご利用いただく想定です。県民ギャラリーと連動の場合はエントランスロビーでも可能です。授賞式などはホールもご利用いただけます。

2 貸出備品について

- ・ピン打ちとは何のことか。

＜赤尾＞キャプション等を留める虫ピンのようなものです。サイズ等は今後、美術館で検証の上、提示します。

- ・貸出し備品にガンタッカーを追加してほしい。消耗品だが、ハリもあるとよい。
- ・オープニングセレモニーに使用するテープカットのポールを貸してほしい。テープやはさみ、手袋の消耗品は持参する。

＜赤尾＞ご意見を基に検討を行い、次回対話会で検討案をお示ししたいと思います。

3 ホールの利用について

- ・ホールの椅子は互い違いに配置すればいいのでは。

＜赤尾＞ご自由にレイアウトいただけます。

- ・ホールを展示スペースとして使ってもよいか。椅子は撤去できるようになっているか。

＜赤尾＞展示は可能ですが県民ギャラリーをおすすめします。

- ・自主制作映画や映像の上映に使える部屋だと理解した。

＜赤尾＞多様な使い方ができるようにしたいと考えます。

4 ワークショップルームの利用について

- ・裸婦のデッサン会で、モデルの着替えができる部屋があるといい。
＜三浦＞ワークショップルームとは別に、控室もあります。

・子どもたちが未来の美術家になれるような、いろんな研修を受けてもらいたい。
ただ展示を見るだけの美術館ではなく、ワークショップルームで子どもたちが制作できる環境にしてほしい。映像や音などの仕様が完備されているが、出来上がったものを見せるための設備であり、これからの子どもたちを養い指導するためのスペースとしては不足すると考える。

＜三浦＞我々も教育普及・美術振興は大変重要と考え多彩なプログラムを企画しています。

ワークショップルームについては映像・音響だけでなく、流し台や工具など創作活動に適した設備になっています。創作テラスもあり、子ども向け大人向け様々な制作の場を提供できます。

活動を多様に行うことができるスペースです。

5 特別展示コーナーの利用について

- ・特別展示コーナーの使用方法は。

＜赤尾＞企画展示室とリンクさせ関連情報の紹介や次回企画展の予告などに使用することを想定したコーナーで、単独でお貸しすることは想定しておりません。

6 その他

- ・なぜ大山が見えるようにつくらなかったのか。

＜赤尾＞天候がよければ西側展望テラスから見えます。

- ・今回の意見を反映した結果の広報をしっかりとしてほしい。

＜赤尾＞課題であると考えしっかり対応します。

- ・この会の参加者が少ないことについて、残念に思う。

＜赤尾＞真摯に受け止め改善に努めます。次回対話会にて、早めの告知とWEB以外の手段も検討します。

7 アンケートでのお声など

- ・県民ギャラリーでほかの団体と一緒にやるのは、盛り上がっていいのではないかと。

- ・なるべく未来ある学生が利用しやすいようにしてほしい。

- ・美術部・書道部など芸術活動している部員が活動できる機会を提供してほしい。（指導の企画など）

・利用申込や仮予約の際に、備品の貸出（又は主催者の持ち込みを原則とする）等をわかりやすく作っていただけると助かります。

・この対話会に2回出席した。前回の対話会で気づかなかった点などをあらためて詳しく聞くことができた。第二回対話会はどんなテーマでいつ行うのか。ぜひ多くの県民の関心を喚起し多くの参加者のあることを望みます。